

経営比較分析表（令和4年度決算）

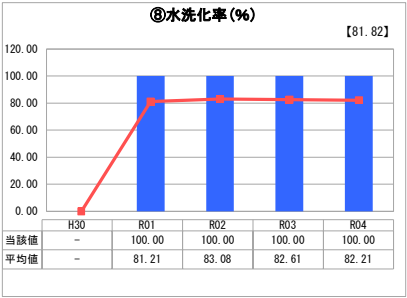
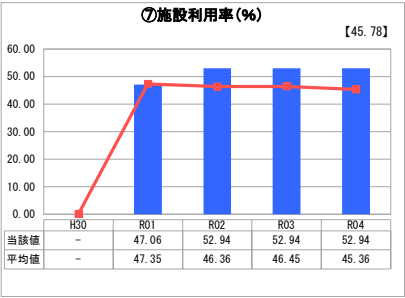
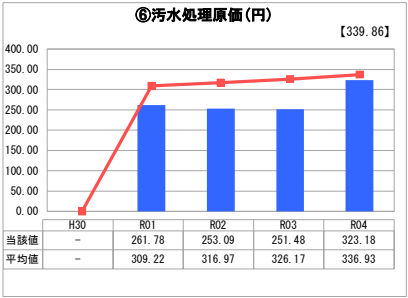
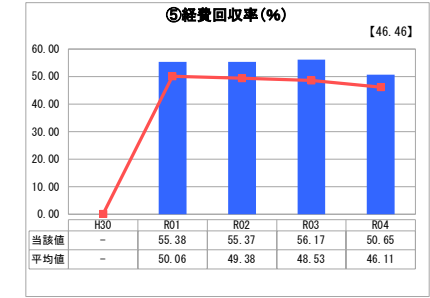
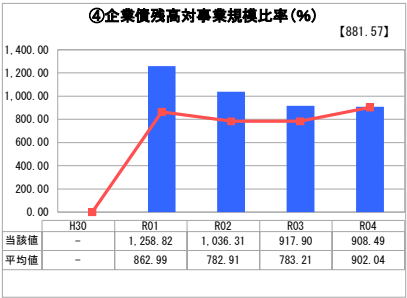
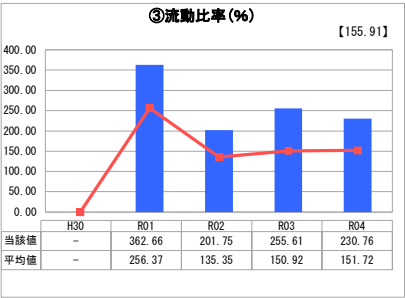
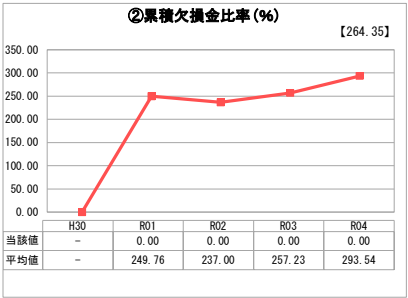
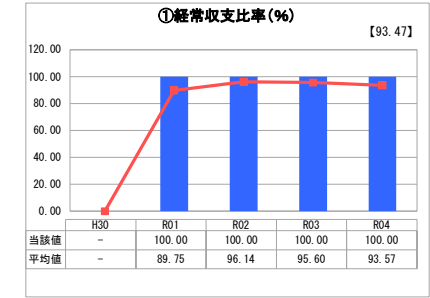
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	42.09	2.13	100.00	3,300

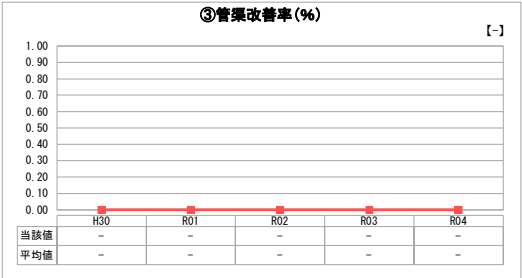
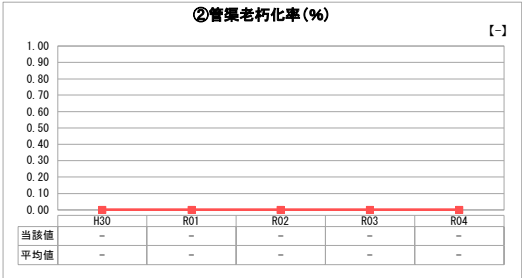
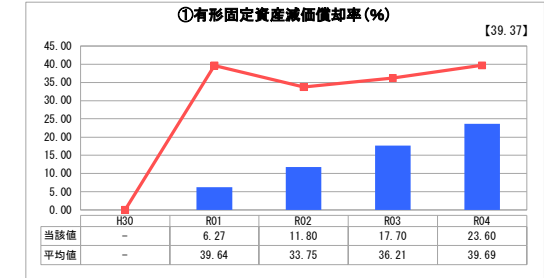
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,119	89.45	191.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
361	0.05	7,220.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
使用料の改定を行い、当該指標は100%で横ばいとなっているが、経常収益には本来使用料で賄わなければならない基準外繰入金も含まれていることから、引き続き経営改善に努めることとしている。
- ③流動比率
流動負債の大半を占める企業債の償還金に対し、不足する財源を一般会計繰入金や下水道事業資本費平準化債等で補っている状況である。
- ④企業債残高対事業規模比率
使用料は改定し収益的に改善されたものの、他事業の認可区域外や中山間地域における小規模整備ということで使用料収入が少ないことから、類似団体と同程度の水準となり、今後も減少していく見込みである。
- ⑤経費回収率
使用料を改定し収入自体は増加したが、事業規模が小さいため回収率の数値にはリアルタイムに反映されなかったと考えられる。今後も汚水処理費の削減に努めることにより経費回収率の向上を図る。
- ⑥汚水処理原価
これまで類似団体と比較して低い状況となっていたが、維持管理費の削減に努めたことから同等の水準までに至った。一方で、人口減少に伴う有収水量の減少が見込まれることから水洗化率の向上は図る必要がある。
- ⑦施設利用率
今後の汚水処理人口の減少を踏まえ、適切な施設

2. 老朽化の状況について

現状では耐用年数に近いものはない状況である。

全体総括

資産に係る減価償却費や償還金が支出の大部分を占めている状況となっている。
使用料の改定による収益の増加分を注視しつつ、包括的民間委託などによる維持管理費の縮減に努め、経営改善を図ることとしている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。